

# 学校いじめ防止基本方針

東広島市立御菌宇小学校

## 1 策定の趣旨

いじめは、人間として絶対に許されない行為であり、いじめられた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重要な危険を生じさせるおそれがある。

いじめは「どの子供にも、どの学校でも、起こりうるものである」との認識に立ち、いじめを許さない集団づくりを通して、いじめの問題の未然防止を図るとともに、いじめのサインを早期に発見し、早期に対応することが大切である。また、全ての児童が安心して学校生活を送り、自分の夢の実現に向かって様々な活動に自律的に取り組むことができるよう、学校を含め、地域社会全体でいじめの問題に取り組むことが重要である。

このため、御菌宇小学校として、いじめ問題の克服に向け、いじめの防止等の基本的な方向を示す「学校いじめ防止基本方針」を定め、市・学校・家庭・地域住民・その他の関係者の連携の下、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。

## 2 いじめの定義等

「いじめ」を、いじめ防止対策推進法第2条に基づき、次のとおり定義する。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

いじめには、大人には見えにくく、発見することが難しいという特性があり、大人が見逃していたり、見過ごしていたりする可能性がある。いじめの対応においては、認知件数の多寡のみを問題とするのではなく、アンケート調査や教育相談、日常的な実態把握により、早期に発見（認知）し、早期に対応するなど、学校全体で組織的に取り組むことが重要である。

## 3 いじめの防止対策の基本的な考え方

いじめはどの子供にも、どの学校でも、起こりうるものであり、次に示す視点を中心として、取組を推進する。

### （1）いじめの未然防止

児童一人一人の状況を的確に把握し、すべての教育活動において望ましい集団づくりを進めるとともに、全ての児童が積極的に教育活動に参加して活躍することができるよう、「知・徳・体」の基礎基本の充実を図る。

### （2）児童の主体的な活動の支援

児童が自律して、自分たちでいじめのない学校をめざして取り組んでいくことが重要であることから、児童会活動や学級活動など児童の自主的な活動において、いじめをなくすための取組を行う等、児童の主体的な活動を支援する。

(3) いじめの早期発見・早期対応

いじめられている児童を守るために、定期的、計画的なアンケート調査や教育相談（教職員による教育相談及び心のサポーター等）を進めるとともに、日常的な実態の把握により、児童が発するどんな小さなサインも見逃さず、早い段階で適切に対応するなど、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。

(4) いじめへの組織的な対応

特定の教職員が問題を抱え込むことなく、学校全体で情報を共有する。また、いじめ防止対策推進法第22条により設置する「いじめ防止委員会」を中心に、全教職員がいじめられた児童を守りきるという立場に立ち、組織的に対応する。

(5) 学校、家庭及び地域の連携

学校関係者、PTA 及び地域の自治会等が連携・協働し、地域社会全体で児童を見守り育てる。

#### 4 本校におけるいじめ防止等に対する取組

本校は「学校いじめ防止基本方針」に基づき、校長のリーダーシップのもと、組織的、計画的に取組を推進する。

(1) 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組

- ア 学校のホームページなどで公開する。
- イ 保護者や地域住民などの意見を取り入れ、基本方針の修正や取組に生かす。
- ウ いじめの防止等に係る年間活動計画を作成し、実効性のあるものとする。
- エ 策定した基本方針が機能しているかどうかの検証及び見直しを行う。

(2) 「いじめ防止委員会」の設置

- ア 「いじめ防止委員会設置要綱」は、別途定める。
- イ 「いじめ防止委員会」を、校務運営組織に位置づける。

(3) いじめの防止等に係る児童への指導

- ア すべての教育活動において「人を大切にする」心情を大切にし、人権尊重の立場から相手を尊重する風土のある学校・学級づくりに努める。
- イ どのような行為がいじめに当たるのか、いじめられた児童にどのような影響を与えるのか、いじめはどのような構造なのかなど、いじめについて正しく理解させる。
- ウ 社会体験や生活体験の機会を効果的、意図的に活用し、児童の人間性や社会性を育み、豊かな情操を培う。特に、縦割り班活動などの異学年集団による活動や校種を超えた保・幼・小・中連携等を意図的、計画的に仕組み、児童が他者と望ましい人間関係を築いていくための能力の基礎を養う。
- エ 特別活動の時間等を活用して、ソーシャルスキル・トレーニング等を行い、円滑に他者とコミュニケーションを図る能力を育成する。

オ 自分自身がいじめられていることや友人等がいじめられている事実を教職員や家族、相談機関等に伝えることは、適切な行動であることを理解させる。

#### (4) 児童の主体的な活動の支援

児童会活動や学級活動等を通して自主的・実践的な態度を育成する中で、いじめについても課題意識をもたせ、児童が自らの問題として、その解消に努める活動を行えるように指導・支援する。

#### (5) 生徒指導体制及び教育相談体制の構築

ア いじめの防止及びいじめ発生時の対応等に係る校内研修を実施する。

イ いじめの防止及びいじめ発生時の対応等に係る保護者・関係機関等との連携を進める。

ウ いじめの防止及びいじめの早期発見に係る定期的、計画的なアンケート調査及び個人面談を実施する。

エ いじめの防止等に係る保護者への啓発及び広報を行う。

オ いじめの防止等に係る相談窓口の設置及び広報を行う。

カ いじめ発生時の対応プログラムを作成する。

キ 必要に応じて、心理や福祉の専門家、医師等の外部専門家を招聘する。

#### (6) 警察への相談・通報

いじめの中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが必要なものや児童の生命、心身または財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。これらについては、早期に警察に相談・通報の上、警察と連携して対応する。

#### (7) 重大事態発生時の対応

調査組織（プロジェクトチーム等）を編成するとともに、対応フロー図を作成する。

## 5 重大事態への取組

重大事態が発生した場合、学校は、速やかに市教育委員会に報告するとともに、プロジェクトチーム等を編成し、調査等の適切な取組を行う。

### 【発生時の取組】

ア 重大事態が発生した場合、学校は市教育委員会に報告する。

イ 市教育委員会の判断により、調査組織を学校内に置き、調査する。

ウ 学校は、「いじめ防止委員会」等を中心としたプロジェクトチームを設置し、市教育委員会の指導の下、アンケート調査及び個別面談などの適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行い、その結果を市教育委員会に報告する。

## 6 見直し

本基本方針は、より実効性の高い取組とするため、必要に応じて検証及び見直しを行う。

## 7 施行

平成26年8月21日